

35. 庄本連合自治会への「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成28年（2016年）8月27日（土）19:30～

○場 所：庄本会館2階会議室

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>全国的には、吹田市の「千里みらい夢学園」のように、小学校と中学校が別の敷地にある施設分離型が圧倒的に多い。今回、なぜ施設一体型小中一貫校を提案しているのか。</p>	<p>全国にある小中一貫校の約8割が施設分離型で、約1割が施設一体型になります。施設一体型が少ない理由として、小学生と中学生と一緒に過ごせる校舎にするために既存の校舎を改修したり、新しく建設したりする必要があり、財政面での負担が大きいことが挙げられます。文部科学省による「小中一貫教育等についての実態調査」の結果では、施設一体型の施設形態の方がより教育効果が高いと報告されていますが、実際には、財政面等から施設分離型に比べて、施設一体型の方が少なくなっています。</p> <p>小中一貫教育でも、これまでと同様学年ごとに授業を行います。</p> <p>小学校と中学校が離れていると、教職員の意識の共有が難しくなると言われています。例えば、小学校の教職員は小学校ではしっかりと教えたのに、中学校に進学してから勉強が分からなくなって荒れてしまうと感じ、中学校の教職員は小学校での学習が定着していないと感じることがあるなど、小中の教職員の意識にはズレがあります。</p> <p>教育委員会としましては、庄内地域の小規模校化の課題を解消することだけでなく、小中の教職員がこのような教育をしたい、このような子どもたちを育みたいといった意識を共有し、9年間を見通した一貫した教育活動を行っていくことで、より教育効果を高めたいと考えています。</p> <p>今回ご提案しております構想案1は施設一体型小中一貫校、構想案2は施設分離型小中一貫校になります。両案を比較すると、構想案2の施設分離型の方が、施設の空間的余裕はありますが、学校の場所が離れてしまいます。より効果的に小中一貫教育を進めるには、施設一体型の方が適していると考えています。両方のメリット、デメリットを比較し、丁寧に検討を重ね、秋口の説明会には、どちらの構想案で進めるか、お示したいと考えています。</p>

<p>なぜ小中一貫校をつくるのかという理由が分からない。子どもたちのために、こうしたいという形が見えてこない。学校や地域によって、状況が異なるわけだが、学習的に厳しい地域なのに、学校を合併するだけでは良くなるとは思えない。庄本地区から学校が無くなり、新しい学校まで遠くなり、さらに、新しい学校が荒れているとなれば、若い世代は庄本地区に住もうとは思わないだろう。そうっては困る。</p>	<p>現在の構想案では、庄本地域から新しい学校までの通学距離が遠くなるのは確かですが、遠くなくても子どもたちが通いたくなるような「魅力ある学校」にしたいと考えています。これまでも市内全中学校区では小学校と中学校の連携に取り組んでおり、例えば、庄内西小学校と第七中学校では、ユニバーサルデザインの授業づくりなどで連携しています。しかし、小学校と中学校の場所が離れていることで、なかなか思うように連携できないという現状もあります。施設一体型になれば、職員室が1つになり、小中の教職員が常に子どもたちの情報交換できたり、教え方や教材研究がしやすくなったりするなど、大きな効果が期待できます。</p> <p>具体的にどのような魅力的な学校にしていくのかということは、今後、現場の教職員と一緒に丁寧に検討していきたいと考えています。</p>
<p>今、学校の学習効果をあげるために何をしているのか。</p>	<p>子どもたちの学習効果を上げるために「学びの根っこ」「学びの幹」等の事業を実施しています。</p> <p>教職員の定数は法律で決まっていますが、庄内西小学校にはさらに5人の加配をしています。現市長の方針もあり、このような加配の措置を行っていますが、今後、市長が代わった場合、現体制を維持できるのか、分かりませんので、根本的に学校の運営体制を安定させることが必要という観点も含めて、今回の再編案をご提案しています。</p>
<p>計画を考えるにあたって、大学の教授等、専門の識者を交えて、住民がもっと意見を言いやすいような場を設けてほしい。過去の市議会の答弁書を見ると、スクールバスを出さないと言い切っている。すでにスクールバスを出さないと決まっている状態ではないか。</p> <p>今日の説明会には教育委員会だけ来て、市の担当者は来ていない。市にこうしてほしいと言いたいことがあっても、それを伝える場がない。庄内出張所があるが、本庁につないでくれるような窓口もない。</p> <p>敷地面積の問題だが、千成小学校の敷地は狭いのではないか。校舎を高層化して、屋上プールをつくるという想定だが、メンテナンス費が莫大になるのではないか。地価の高い都市部で、校舎を高層化するのは仕方ないが、なぜこの地域で建てようとするのか理解できない。</p>	<p>現在、庄内地域全体のまちづくり方針について、さまざまな関係部局が検討を進めているところです。現時点では、新しい内容をお示しすることができないため、本日は出席していませんが、次回以降の説明会では、関係部局から直接、ご説明したいと考えています。</p> <p>この構想案の検討にあたっては、学識経験者、例えば、京都産業大学の西川信廣教授にもご意見をいただきながら、検討を進めているところです。西川教授は豊中市学校教育審議会という附属機関の会長を長年務めていただいた方でもあります。</p> <p>お示ししています構想案は決まったものではなく、皆様のご意見をいただきながら、検討を進めていきたいと考えています。小中一貫教育の具体的な教育内容については、まだ検討しなければならないことが多くありますので、方向性が固まり次第、現場の教職員と一緒にしっかりとつくり上げていきたいと考えています。</p>

<p>文部科学省が、小学校の教員の中で、中学校の免許を持っている教員の割合を公開しているが、なぜか大阪府だけ載っていませんでした。</p>	<p>隠しているということではなく、大阪府には、大阪市や豊能地区3市2町など、独自で教職員を採用している市町村があり、文部科学省が調査した時点で、それらを全て集計できていなかったため、記載ができなかったと聞いています。</p>
<p>この構想案は誰が作成したのか。</p>	<p>教育委員会が素案を作成し、庁内の検討会議で関係部局の部長、課長などと議論を重ねながら、内容を精査しました。</p>
<p>小中一貫ではなく、中高一貫は考えてないのか。学校選択制を取り入れることは考えていないのか。</p>	<p>現在、豊中市立の高等学校はございませんので、中高一貫教育については検討されていません。</p> <p>学校選択制については、学校教育審議会において、過去に2度議論されましたが、地域と学校が緊密な連携・協働関係にあること、また、地域で子どもを見守り育むという観点から、本市には学校選択制は馴染まないという結論に至りました。</p>
<p>本日この場に来られなかった人からアンケートを預かっているので、読み上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫校の設置には反対である。保育園児から小銭を取り上げたり、公園に集まり喫煙したりする中学生がいる。このような生活態度の中学生と判断力の欠ける小学生との接点が無い方が良い。 ○小中一貫校には反対である。南部に必要なのは、丁寧な教育であり、少人数指導を生かしてしっかりと教育してほしい。まちづくりも大切。学校が無くなった地域に若い人は移り住んでこない。 ○南部地区は北部地区に比べて、教育に熱心な家庭が少なく、小中学校の学力が低いのが現状である。南部地区に小中一貫校をつくると、素行の悪い中学生の影響を小学生が受けるのは目に見えているので、廃案にしてほしい。 <p>というような意見がある。</p>	<p>ご意見として承ました。</p>
<p>私はかつて第七中の教員だったが、音楽の授業で音符や記号の意味が分からない生徒がおり、全員が庄内西小学校出身だったため、庄内西小学校に出向き、小学校の教員に音符や記号の意味をしっかりと教えてほしいと伝えた。先ほど、施設分離型では教職員同士のコミュニケーションが取れないという話であったが、私は、教員の”意識の問題”だと思う。</p>	<p>施設分離型では小中の教職員のコミュニケーションが取れないのではなく、施設一体型に比べて、取りにくくなると考えています。小学校での基礎基本の学習をしっかりと定着させた上で、中学校での学習を深めるためには、日常的に小中の教職員が子どもたちの学習についてコミュニケーションが取りやすい施設一体型の方が、より効果が高いと考えています。</p>

中学校の先生が、「小学校でちゃんと勉強を教えておいてほしい」と言ったり、小学校の先生が、「どうしてあんなにいい子が中学校で荒れてしまうのか」などとお互いに言い合うのは、先生の「資質の問題」であると思う。

先ほど、西川信廣先生(京都産業大学教授)の話があったが、私は教育振興計画の検討会でご一緒したことがあったが、その時、西川先生は「豊中市で小中一貫校は無理だね、やるんだったら小中連携だね。」とおっしゃっていた。

私は「魅力ある学校」づくりワークショップに何度も参加してきたが、小中一貫校の話が全く出なかった。他小学校区では話が出ていたらしいので、校区により温度差を感じる。もし話が出ていれば、事前に小中一貫校について議論ができたと思う。

地域の中心は小学校である。小学校が無くなると、地域の魅力も無くなり、新しく引っ越してくる人も少なくなる。

千成小学校区の方は、この構想に賛成であると聞いた。校区ごとの不公平感もあるので、我々の気持ちもしっかりと受けとめてほしい。

先日、この地域で開催した「盆踊り大会」に来ていた子どもたちが例年より少なかった。庄内西小学校が無くなれば、子どもたちは今以上に減り、盆踊り大会も開催できなくなるのではないか。過疎化が進む中で、この地域がどうなるのか。学校がなくなることに対して、地域を活性化させる代替案が示されていないので、納得できない。

私は、庄内西小学校に子どもを通わせている保護者である。

まず、聞きたいのが、庄内西小学校は本当に小規模校なのかということである。文部科学省が定める小学校の適正規模は12～18学級だが、全国の小学校の約半分が、それより少ないという状況である。現在、庄内西は10学級で、豊中市全体でみると、確かに少ないが、全国的にみると、庄内西小学校よりも小規模な学校は全体の約4割を占めている。全国的にみて庄内西小学校は限りなく適正規模に近いと言えるので、このまま存続してほしい。

どうしても小中一貫校をモデル校として創立したいのなら、千成小校区の方は、今回の構想案に賛成ということなので、千成小校区のみで小規模な小中一貫校を作り、その後、うまくいったら、庄内西小校区でも小中一貫校を作ればいいのではないか。小規模校の小中一貫校を作る予定はないのか。箕面市の「とどろみの森学園」も2008年開校当時は60人であっ

教育だけでなく、まちを活性化させる取り組みなど、庄内地域全体のまちづくりも推進していくことが必要だと考えています。

本日は、教育委員会しか出席していませんが、次回以降の説明会では、まちづくりの担当部局からも説明させていただきたいと考えています。

地域から小学校がなくなって、子どもたちの数が減るということは考えどころであります。「魅力ある学校」づくりとともに、住みやすい、子育てしやすいまちづくりにも取り組まなければ、さらに人口が減少していくことが考えられます。市では、待機児童の解消に向けた動きもあり、また、(仮称)庄内駅前庁舎には、一時預かりの保育施設が新設される予定です。

まちづくり全体を考える上で、駅から少し距離がある地区についても、どのような交通手段が考えられるのかなど、さまざまな観点から、検討していく必要があると考えています。まちづくりの方針を打ち出すにあたっては、丁寧な検討と議論を重ねる必要があるため、すぐに具体的に施策をお示しすることができませんが、検討の状況は、適宜、皆さんにご説明し、ご意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

千成小学校区の方が、この構想案に賛成しているとおっしゃいましたが、千成小学校区で説明会を開催した際にも、さまざまなご意見をいただき、検討し直すべきだとの声もありましたので、必ずしも千成小学校区の方全てが賛成されているとは認識しておりません。

千成小学校区だけを小中一貫校にすることについて、千成小学校は現在12学級で、仮に中学校を設ければ6学級になります。小学校は学級担任の教職員が1人いれば授業はできますが、中学校は教科担任制のため、1学年に10人ほどの教職員が必要になります。中学校では教科ごとの教員免許が必要になりますので、6学級になると、実質的に授業の運営が厳しい状況になります。第十中学校は現在6学級ですが、市負担で教職員を加配して運営しています。中学校の学校規模は9学級、生徒数300人を下回ると教職員配置に課題が生じてくると言

<p>だが、今では小学生 429 人、中学生 112 人、計 541 人の大規模校になっている。このように、徐々に小中一貫教育の様子を見て、教育効果を確認した後に庄内西小学校区も加わればいいのではないか。</p>	<p>われています。 箕面市の「とどろみの森学園」は、新しく開発されたニュータウンに立地していますので、住宅が建つにつれ、人口が増加しているという背景があります。</p>
<p>構想案 2 では、庄内南小学校の敷地を使うが、庄内南小学校敷地の 3 分の 2 が借地で、年間 2,300 万円ほどの借地料がかかっている。平成 30 年に契約が満了するとのことだが、平成 30 年以降も借り続けることはできるのか。</p>	<p>庄内南小学校の敷地の一部が借地で、借地料を支払っていることは事実です。契約期間が過ぎても、ただちに学校の敷地として使用できなくなることはないと認識しています。学校として使用し続ける限り、契約を更新し、使用し続けることができるものと考えています。</p>
<p>運動場の広さについて、児童生徒数によって国が定めていると聞いた。北校、南校ともに設置基準を満たしているのか。</p>	<p>運動場の設置基準は小学校と中学校で異なります。施設一体型小中一貫校の場合、中学校の設置基準の 8,400 m² を基準としている他市事例があります。なお、義務教育学校を設置するとなった場合、低学年が使えるような広場等を確保することという国からの指針が出ています。</p>
<p>私の計算では、学校教育法第 8 条に基づいて計算すると 12,000 m² 必要になる。南校は図面上 8,000 m² しかなく、4,000 m² 足りないということになると、窮屈になり、子どもたちがかわいそうである。文部科学省が発行した「公立小学校の適正規模、適正配置等に関する手引」では、統合困難な小規模校の支援について、市町村のニーズに合わせたものを検討し、国や市単独加配等を活用しつつ、小規模校の教育活動の充実や複式学級の解消に計画的に取り組むべきであるといったようなことが書いてあった。先ほど、市長の方針で、庄内西小学校に加配しているという説明があったが、特別に加配を与えているというような説明に感じたので、今後、加配することについては、間接的な言い方をしてほしい。</p>	<p>教職員の加配に関して、誤解を招く説明になり申し訳ありません。</p>
<p>彩都の丘学園は小中一貫校の成功事例である。池田市の細河小学校は、140 年も続く小学校だったが、児童数が 120 人の小規模校になってしまった。そのため伏尾台小学校と統合し、「ほそごう学園」という 500 人規模の小中一貫校になった。今回、1,000 人を超える大規模校になってしまう。大規模校になってしまうと、子どもたちと先生との関係が薄れてしまう。小学校が無くなった細河地区は現在過寂れてきている。仮に庄内西小学校が閉校になれば、この庄本地区は寂れてしまう。どのような方法で、この地域を活性化してくのかという提案がなければ住民は納得できない。庄内西小学校のできた経過も知った上でじっくり進めるべきであり、焦ってするべきではない。小規模だと競いあえないと言われるが、生きていく上で最後に大切なのは「助け合い」である。競争もいいが、助け合</p>	<p>私は 40 年間教職員生活を送ってきまして、庄内地域では庄内西小学校、第六中学校に勤務した経験があります。 教職員の資質の問題について、全くないとは言えません。しかし、私の教職員経験から、子どもたちのことを考えない教職員はいないと感じています。どの教職員も、子どもたちが将来社会を歩んでいくための力を付けたいと願っていると感じています。ただし、指導方法や力量は、教職員によってそれぞれ異なります。 庄内地域には、クラス替えができないなどの小規模校化の課題があるだけでなく、学力的な課題等も深刻であり、高校に進学しても中退してしまう子どもたちも少なくありません。小中一貫校にすれば、今ある課題が全て</p>

<p>いも教育してほしい。合わせてこの地域が活性化するように考えてほしい。次に説明に来る時はいい案を持って来てほしい。</p>	<p>解決するとは考えていませんが、このままの状態を続けることは本当に子どもたちの教育環境にとって良いのか疑問に感じます。</p> <p>学力や生徒指導上の問題は小学校高学年から見えはじめ、中学校に入り、顕著になってくると言われています。教職員には指導力の違いもあり、担任だけで対応することが困難な場合もあります。教職員を加配するだけでは、根本的な解決策とは言えませんので、学校運営上の新たな仕組みづくりが必要であると感じています。その1つの方法として、小中一貫教育により、子どもたちの9年間を小中の教職員と一緒に育みたいと考えています。</p>
<p>今回の構想案は、人口減少が発端となっている。市はまちづくりを含めて、人口減少に対する施策を考えなくてはいけない。庄内地域に地下鉄や阪急電車の駅を設けるなどして、地域の活性化をする必要がある。</p>	<p>今回の構想案をお示しするにあたり、学識者等にも相談しながら、さまざまな観点から検討を重ねてきました。当然のことながら、学校だけでなく、まちづくりや地域コミュニティの視点も盛り込んで検討しなければならないと考えています。</p>
<p>今日の皆さん(地域の方)のご意見を聞いていて、庄本地区の方はほぼ100%反対であるように感じた。 今回の構想案は、先生の立場の目線で、子どもたちの目線からは全然考えていないように思える。</p>	<p>お示ししている構想案は決まったものではなく、今後も皆さんにご意見を伺いながら、検討を進めていきたいと考えています。</p>
<p>資料に「ユニバーサルデザイン」、「コラボ」など、横文字やカタカナ用語が使われているが、もう少し分かりやすい言葉で説明してほしい。</p>	<p>ご意見として承りました。</p>